

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：児童保護費

事業名 地域療育システム支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 障害福祉課 発達障害支援係 電話番号：058-272-1111 (内3487)

E-mail：c11226@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 719 千円 (前年度予算額： 719 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	719	0	0	0	0	0	0	0	719
要求額	719	0	0	0	0	0	0	0	719
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

障がい児が住み慣れた地域で必要な療育を受けられるよう、県立希望が丘こども医療福祉センターが市町村等の療育機関に技術的支援を実施し、療育関係者の資質向上や市町村の地域療育体制構築の取り組みを支援する。

(2) 事業内容

派遣事業

地域にスタッフ (作業・理学療法士等) を派遣し、療育に関する技術的支援を行うことにより、地域の療育関係者の支援技術の向上、地域での専門的な療育の実現を図る。

研修事業

市町村や療育機関の職員を対象とした研修会の実施、また地域の一次及び二次療育を担う専門スタッフを対象としたセンターでの実地研修を実施する。

相談事業

令和5年度新設。地域における個別の相談事案に対する助言指導、コンサルテーションを実施することにより、地域の療育関係者の対応力強化を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

※ 地域生活支援事業における必須事業の障害児等療育支援事業（交付税措置）は、本事業内で実施している。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	135	研修講師謝金等
旅費	240	療育スタッフ支援業務旅費
消耗品費	60	支援に係る消耗品費等
燃料費	80	公用車燃料費
会議費	9	講師等茶菓子代
役務費	48	郵送料、電話代
使用料	147	研修会場使用料
合計	719	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第3期岐阜県障がい者総合支援プラン IV質の高い保健・医療提供体制の整備
2 障がい児者に対する医療と福祉の連携による支援の充実

(2) 療育体制の充実 希望が丘こども医療福祉センターにおける療育支援
②専門チームの派遣・③研修

(2) 事業主体及びその妥当性

県

(希望が丘こども医療福祉センター：障がい児療育の中核的機関)

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

障がい児が住み慣れた地域で必要な療育を受けられるよう、県立希望が丘こども医療福祉センターが市町村等の療育機関に技術的支援を実施し、療育関係者の資質向上や市町村の地域療育体制構築の取り組みを支援する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H26)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①派遣市町村数	0	11	15	15	15	73%
②対象児童数	0	26	35	35	35	74%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	派遣事業：肢体不自由児 8市町 / 発達障がい児 2市 研修事業：SST研修（動画配信） 103人（視聴者数）
令和 3 年度	派遣事業：肢体不自由児 6市町 / 発達障がい児 3市町村 研修事業：地域療育スタッフ養成研修 ・CLMと個別の指導計画入門編（動画配信） → 103人（参加者数） ・ティーチャートレーニング体験（動画配信） → 70人（参加者数） 指標① 目標：__15__ 実績：__9__ 達成率：__45__ %
令和 4 年度	派遣事業：肢体不自由児 5市町 / 発達障がい児 7市町村 研修事業： 地域療育スタッフ養成研修（動画配信） 35人（参加者数） 公開講座「気になる子の感覚遊び・運動遊び」 171人（参加者数） 基礎研修「体幹の弱さや感覚の偏りからくるつまずきの理解と支援」 251人（参加者数） 指標① 目標：__15__ 実績：__11__ 達成率：__73__ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>地域療育の推進のため、医療・福祉の中核拠点である希望が丘こども医療福祉センターの専門スタッフの助言・指導により、地域の療育関係者の支援技術の向上を図ることが必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 3	<p>専門スタッフ派遣事業や療育支援のための研修事業は、療育関係者の支援技術に役立ち有効である。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>地域の療育関係者と関わりが深い市町村コーディネーターや圏域発達障がい支援センター職員を介して研修希望を集約しており、効率的である。現状では派遣地域の偏りがある。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 地域における発達障がい児や肢体不自由児等の指導について、専門性が高まるような支援メニューが必要である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 市町村職員だけでなく、民間事業所を含めた療育関係者のニーズに応じた事業メニューやその実施について検討していく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	